

(様式1)

令和7年度 学校経営計画

富山県立高岡商業高等学校

1 教育目標（校訓）

- 一、健康で明朗、教養豊かな人となれ
- 一、誠実で他人とよく協調できる人となれ
- 一、勤労を愛し、責任を重んずる人となれ

教育方針

- ア 質実剛健な校風を堅持し、逞しい気力と体力を培う。
- イ 基礎的な知識を習得し、豊かな情操を育み、技術を錬磨する。
- ウ 連帯感を育成するとともに、個性の伸張を図る。
- エ 言動に責任を持ち、社会に信頼される人格を育てる。

2 学校の特色

- (1) 本校は、明治30年6月、高岡市立高岡簡易商業学校として創立され、令和9年に創立130周年を迎える歴史と伝統ある県西部の単独商業高等学校である。
- (2) 常に時代の進展に対応した商業教育の推進を目指し、地域と連携した取組と教職員の研究・努力によって、特色ある専門教育を展開している。
- (3) 生徒と地域に元気（夢や希望）を与える学校づくりに主眼を置き、「人づくりの高商」として、将来の地域・社会を担う実践力を備えた人材育成を図っている。

3 学校の現状と課題

4つの小学科を有する商業の専門高校として、「人・モノ・金・情報」の流れを学び、地域協働・地域連携等の活動をとおして、ビジネスの実践力を磨き、社会で活躍できる職業人の育成を目指す。学習と部活動の両立を図るとともに、人間的成長を促し、生徒の能力・適性・進路の多様化に対応できる商業教育の推進を図る。

「現状」

- (1) 流通ビジネス科・国際ビジネス科・会計ビジネス科・情報ビジネス科の各学科の目標と特色をより明確にした学習と、地域協働等を通して専門的な知識や技術を身に付け、ビジネス社会で活躍する実践力を備えた職業人の育成を目指している。
- (2) 全教科を通して、主体的に考え行動できる能力、課題を発見し解決しようとする能力、新たな価値を生み出せる創造力を育成し、生徒一人一人の個性や適性に応じた進路実現を図っている。
- (3) 基礎学力の向上を図るとともに、「主体的・対話的な深い学び」に向けた授業改善やICT活用などにより、学びの質を高める取組を実践している。
- (4) 保護者・生徒の理解を得て全員部活動加入制を実施しており、心身の鍛錬をもとに技術を錬磨し、運動部文化部を問わず全国大会への出場や入賞を目指して日々の練習に真摯に取り組んでいる。

「課題」

- (1) 各学科の商業科目の学習理解度の定着を図るとともに、地域との連携を一層密にし、地域協働による課題解決型の探究的な学習を推進する。
- (2) キャリア・パスポートの活用や実践的・体験的な学習活動により、自己理解を深め、一人ひとりの自己実現を目指す目的意識をもたせるよう取り組む。
- (3) 校内研修の充実やICT機器を積極的に活用した授業実践等に取り組む。
- (4) 他者との関わりや体験を通して、望ましい人間関係を構築する能力の向上や規範意識の醸成、課題に挑戦する意欲、精神力を育む「人間教育」に取り組む。

[様式2]

4 学校教育計画

富山県立高岡商業高等学校（令和7年度）

（重点箇所：太字）

項 目		目 標 ・ 方 針、及 び 計 画	
1	学習活動 重点①②	目標	・ 社会に貢献できる力を育むため、基礎・基本を確実に身につけることを目指す。自ら学ぼうとする姿勢や主体的に判断、行動して問題解決に結びつける確かな学力を向上させる。 ・ 魅力ある商業教育を通して、ビジネス社会で必要な知識と技術を養い、地域社会に求められる人づくりを目指す。
		計画	① <u>チャイム（ベル）着授業を徹底、かつ開始・終了時の挨拶を徹底し、授業へのメリハリから集中力を高め、やる気を喚起する。</u> ② 基礎・基本の定着を重視した「分かり、興味が持てる授業」を行う。そのために授業研究や互見授業を中心とした<u>校内研修の充実</u>を図る。 ③ 学習に対する意識や<u>主体的な取り組み状況</u>などを把握することにより、指導法の工夫、改善を進める。 ④ 1年次に基礎的な学力を定着させるための科目を配置し、2年次より小学科の特性に応じた専門科目を重点的に配置して専門教育の充実を図る。 ⑤ <u>基礎学力、読解力向上のための言語活動を特別編成授業時に取り入れる。</u> ⑥ 各教科科目が系統的、継続的、横断的に指導が図れるように配慮する。また、多様化する進路希望に対応するため、選択科目を配置する。 ⑦ 各教科・科目において年間指導計画を作成する。授業では1時間のねらいを明確に提示し、目標達成のための指導法を工夫する。 ⑧ <u>小学科における重点科目の学習理解度の向上とその成果の達成感を確認するため、全国商業高等学校協会主催の検定に向けてきめ細かな指導を行う。</u> ⑨ コミュニケーション能力を高め望ましい人間関係を築き、自己の能力、適性にあった職業観、勤労観を育成する。 ⑩ 産学官と連携した体験的学習を通して、創造的な能力と実践的な態度を育成し、キャリア教育の充実を図る。
2	学校生活 重点③	目標	・ 「学習活動・部活動・社会交流等多彩な行事を通しての人づくり」をもとに、身だしなみを整え、誠実で礼儀を尊ぶ精神を養い、あらゆる機会を通して品格のある生徒の育成を図りながら、人格の完成をめざす。 ・ 生徒が健康に関心を持ち、また、主体的に自己の健康管理ができるように人命の尊重、健康の重要性について機会を捉えて認識を深めさせる。
		計画	① 登下校指導や定期的実施している頭髪服装検査等で、生徒一人一人に声かけを行い、<u>挨拶や礼儀、気配り、所作等</u>を身につけさせながら品格ある生徒の育成を図る。 ② 集会や学級活動、定期的な交通指導を通して、<u>自他の命の大切さを再確認</u>させ、日常生活を安全に送る基礎を身につけさせる。 ③ 学校生活のあらゆる機会を通して、人としての生き方や社会通念、良き人間関係構築などの必要性を説き、<u>規範意識等が身についた信頼される生徒</u>を育成する。 ④ 健康の保持増進に向けて、保護者・学校医・教職員との連絡を密にし、自己管理ができるように機会を捉えて支援する。また、保健指導等を通して健康意識の啓発を推進する。 ⑤ 生徒の抱える問題を早期に把握し、学年との連携を密にしながら共通理解を図り、支援が必要な生徒の対応を検討する。また、教育相談委員会等を開催し、個々の生徒への支援方法等について、専門的立場から助言をいただく。 ⑥ 担任が面接等での「気づき」の参考になるような研修会を通して、不適応生徒への対策に努めるとともに、専門諸機関との連携を図る。 ⑦ 美化活動を実施する等、環境美化及び環境美化に対する意識の向上に努める。

[様式2]

4 学校教育計画

富山県立高岡商業高等学校（令和7年度）

（重点箇所：太字）

項 目		目 標 ・ 方 針 ・ 及 び 計 画	
3	進路支援 重点④	目標	・ 高校入学から卒業まで、生徒の発達の段階を考慮し3年間を見通した進路指導計画を立案し、生徒の主体的な進路選択を支援する。
		計画	① <u>1年生は職業観の育成、2年生は個々の進路目標の具体化、3年生は個々の進路目標の実現を目標に、3年間を見通した進路指導計画を立案する。</u> 中学校からのキャリアパスポートとの接続を図り、全学年ともに各行事等について記録を残す。 ② 生徒の主体的な進路選択の一助となるように、進路指導室に大学、専門学校の学校案内のパンフレットを自由に閲覧できるコーナーを設ける。また生徒が興味をもちそうな学校・企業の資料を予め取り寄せておき、いつでも情報提供できるような環境を整える。 ③ コロナ禍で就業体験や企業実習等の機会が制限されることが多かったが、今後のどのような状況下であっても生徒の職業観、勤労観を高めるための方策を考える。 ④ 在校生には「進路アンケート」を実施し、進路指導の充実を図る。
4	特別活動 重点⑤	目標	・ 学校行事、部活動や地域の行事への積極的な参加を通して、豊かな情操や感性と心身ともに健康を備えた生徒の育成を図る。 ・ 情操豊かな人間形成を目指し、意欲的な読書活動の推進を図り、校内における学習室としての生徒の自主的な学習等を支援する態勢を整える。
		計画	① 生徒会執行部や各種委員会の活動をバックアップし、達成感や自己肯定感を持たせるとともに、学校行事・クラス運営・地域交流を円滑に行えるリーダーを育てる。更に、地域の行事に積極的に参加し、社会に参画する力の育成を図るとともに本校の取り組みを発信する。 ② 部活動を人格形成の重要な柱と位置づけ、 <u>高い目標を掲げ、課題を追究しながら主体的に活動する部活動を実現するため</u> 、キャプテンを中心とした各部部員による研修会・合同練習会等を企画し、生徒の自発的な活動を推進することにより競技力向上を図る。 ③ 図書館の蔵書の適切な更新を図るとともに、図書貸出・検索システムCASSAの有効活用に努め、生徒がより利用しやすい図書館運営を目指す。 ④ 「読書の時間」が生徒の自主的な取り組みになるよう、授業やホームルームでの読書指導を徹底する。 ⑤ 生徒図書委員会の活動を活発にし、図書館情報「らいぶらりい」の発行、教養講座の開催、生徒による店頭購入など、図書館行事の充実を図る。
5	その他 （総務）	目標	・ PTA活動の発展と充実に努め、自主的・積極的な参加を推進する。 ・ 同窓会及び地域との連携・交流を推進し、学校教育の振興を図り、周囲から信頼・親しまれる学校づくりに努める。
		計画	① 保護者がPTA活動や学校行事等を通して積極的に参加できるように学校と家庭との連携を図り、本校の教育活動に関する共通理解に努める。 ② 政財界をはじめ、各方面で活躍されている同窓会員等の人的資源の活用を図り、生徒に社会人として望ましいキャリア教育を推進する。 ③ 課題研究や模擬株式会社りゅうりゅう、ボランティア活動等を通して、地域行事に積極的に参加する。 ④ 生徒の活動状況・学校行事（学年活動）等の教育情報を「安全・安心メール」を活用し、リアルタイムに発信するとともに、「龍骨」・「双龍」の発行や本校のHPでも情報発信に努める。

(様式3)

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

富山県立高岡商業高等学校 (令和7年度)

令和7年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動1(教科指導)	
重点課題	基礎学力の向上と生徒が主体的に取り組める授業実践	
現 状	生徒の興味・関心や学習に対する意識、学力などが多様化しており、学習への取り組み方や理解度、定着状況に差が表れており、特に読解力に差が大きい。一方、社会が求める人物像や新しい学力観に向け、生徒が主体的・対話的に学び、自ら学習を深めるための授業実践を推進することで、学習意欲を高め、基礎学力を定着させることが必要である。また、そのような授業実践などの取り組みのための教員研修が不足している。	
達成目標	主体的に授業や課題に取り組めた割合 (「学習ふりかえりシート」を活用し、自己の取り組み状況を確認し、意欲的な学習活動ができたかを調査)	校内研修(研究授業、互見授業)における授業を実施した回数、授業を参観した回数、研究協議に参加した回数
	85%以上	計4回以上
方 策	・1・2学期末に「学習ふりかえり WEEK」を設定し、「学習ふりかえりシート」を用いて学習に対する取り組み姿勢などの学習活動をふりかえる時間を確保する。また、生徒の主体的に取り組む姿勢を改善させるための契機とするため、振り返りシートの結果は職員に情報共有し、授業改善に役立てる。 ・学習意欲を喚起させるため、年5回の定期考査前に教務通信「Study Navi」を生徒に配布し、意欲的に取り組めるよう生徒手帳に追加した学習計画を立案させる。 ・全ての教科に共通する読解力や語彙力向上のため、特別編成授業時に国語科より学年ごとに統一した言語活動を取り入れる。 ・年2回の校内研修期間を設定し、ベテラン教師からも若手からも互いに学びあえるよう可能な範囲(通年で全教職員対象)で研究授業や互見授業を実施する。見学者からは率直な意見や感想が得られるよう「見学カード」を工夫するなどして、授業改善に役立てる。また、年次研修者へは、研究協議を実施し授業改善につなげる。	

(評価基準 A: 達成できた B: ほぼ達成できた C: 達成できなかった)

令和7年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 2 -		
重点項目	学習活動2(検定指導)	
重点課題	小学科における重点科目の学習理解度の向上と資格取得	
現 状	商業科目の各専門分野に関する基礎的・基本的な知識、技術及び技能の定着を図ることを指導目標としている。小学科ごとに重点科目を設け、学習理解の到達度を確認するとともに、全国商業高等学校協会主催の資格取得目標を掲げることにより、学習理解到達度の向上や資格取得による生徒の満足度を高めるようにしている。	
達成目標	1・2年生は小学科の基礎科目、重点科目の授業内容の理解度 流通ビジネス科: ビジネス基礎、マーケティング 国際ビジネス科: 簿記、ビジネス・マネジメント 会計ビジネス科: 簿記、財務会計I 情報ビジネス科: 情報処理、プログラミング	3年生は3年間を通して、全商主催検定1級の合格数
	90%以上	350以上
方 策	・生徒に各学科の教育目標、重点科目、取得資格目標検定について説明を行う。また、取得を目標とする資格や検定について将来の活用方法を理解させることで、生徒の主体的な学習意欲を引き出し、自らの学習を調整できるよう指導方法を工夫する。 ・理解した学習内容を、生徒同士で協働しながら学習を深めたり、プレゼンテーションする場を設けるなどして、理解した知識を言語化したり人に伝える力を育むことで、より理解が深められるよう指導方法を工夫する。 ・生徒の資格取得状況より、さらに上位の資格取得に向けての具体的方策や改善点について協議する。 ・教員が各学科の取得目標とする検定の学習内容の研究を深め、教員間でより効果的な指導方法について意見交換を行う。	

(評価基準 A: 達成できた B: ほぼ達成できた C: 達成できなかった)

(様式3)

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

富山県立高岡商業高等学校 (令和7年度)

令和7年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 3 -	
重点項目	学校生活(生徒指導)
重点課題	基本的生活習慣(スケジュール管理含)の確立と防犯意識の向上
現 状	本校生徒の86.1%が登下校で自転車を利用しているため、その分、自転車の施錠忘れによる盗難が毎年発生している。他の高岡地区の高校でも自転車盗難が多くなっているという報告があり、盗難に遭った生徒の殆どが、無施錠である。その主な理由として、急いでいて鍵をかける「時間がない」というものである。本校では、月例登校指導(1日、15日)にて、自転車の鍵かけを呼びかけるとともに無施錠自転車をチェックし注意喚起を行っているが、令和6年度は、年間を通じ、校内で延べ48台の無施錠自転車があった。また、自転車事故件数も年間で26件と多かった。
達成目標	自転車施錠率 年間を通じて99%以上(月2回確認)
方 策	・基本的生活習慣を見直すとともに、スケジュールや時間管理を行い、余裕を持った行動を心がける事で、うっかりミスや物品の紛失の減少を図る。 ・月例の交通安全指導(1日、15日)と同時に自転車の施錠点検を行うとともに、生徒会活動やPTA・警察ともタイアップした啓蒙活動を行うことにより、盗難防止の意識向上に向けた注意喚起や指導を強化する。また、学校の駐輪場に監視カメラを設置し、自転車盗難に対するセキュリティを高める。 ・交通事故の未然防止につなげるため、生徒会活動等で、「ヒヤリハットマップ」を作成・掲示することにより、生徒の交通事故防止に対する意識を高める。

(評価基準 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:達成できなかった)

令和7年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 4 -			
重点項目	進路支援(進路指導)		
重点課題	1年次から3年次まで3年間を見通した進路指導計画の立案		
現 状	進路指導部では、進路希望調査や進路ガイダンスの実施、過年度生の資料をまとめた「進路の研究」を作成し、配布している。またクラス担任は、年間3回以上の個人面談を実施し、将来の進路について生徒に考えさせ、それに対する助言をする機会を設けている。しかし、本校の生徒は自らの進路を意識する時期が遅く、3年生になる直前でようやく真剣に進路選択を始める生徒が多い。それぞれが一過性のイベントで終わっていること、「進路選択」という全体の流れの中でのそれぞれの位置づけや役割が、生徒にも教員にも明確になっていないことが一因であると考えられる。入学から卒業まで、3年間を視野に入れたバランスのとれた進路指導計画が必要である。		
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>1・2年生 学年・クラスで実施する進路学習の時間 各学年 7月3時間以上 3月3時間以上</td><td>3年生 進路に対する満足度 (就職内定企業・進学予定校) 3年生:95%以上</td></tr> </table>	1・2年生 学年・クラスで実施する進路学習の時間 各学年 7月3時間以上 3月3時間以上	3年生 進路に対する満足度 (就職内定企業・進学予定校) 3年生:95%以上
1・2年生 学年・クラスで実施する進路学習の時間 各学年 7月3時間以上 3月3時間以上	3年生 進路に対する満足度 (就職内定企業・進学予定校) 3年生:95%以上		
方 策	・1年生では職業観の育成を目標に、2年生では個々の進路目標の具体化を目標に、7月と3月の特別編成授業の期間を中心に進路学習の時間を計画する。実施の際には、進路指導計画全体における当該行事の位置づけ・その後の見通しが、生徒にも教員にも明確になるように工夫する。また中学校からのキャリアパスポートとの接続を図り高校でのキャリアパスポートとして記録に残していく。 ・進路指導計画を教職員だけでなく全生徒にも配付し、本校における進路指導計画を明確にする。 ・進路ガイダンスや外部講師招聘等を活用し、進路実現に向けた指導だけではなく、キャリア教育とも関連づけながら適切な職業観を身に付けさせる。 ・3年生は、個々の進路目標の達成が重要となるため、就職者、進学者、それぞれの希望に合ったガイダンス・特別講座等を計画する。就職内定先・進学予定校が決定した時点で、アンケート等により実態把握と意識調査を行う。		

(評価基準 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:達成できなかった)

(様式3)

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

富山県立高岡商業高等学校（令和7年度）

令和7年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	特別活動
重点課題	部活動において精神的な成長と競技力の向上
現 状	本校は、部活動を人格形成の重要な柱として位置づけている。各部がスポーツ庁のガイドラインや県の方針を踏まえた部活動の在り方を検討し、高い目標に向かって課題を追求しながら自発的な活動を行い、合理的・効率的に工夫した練習を行っている。部活動への参加意義を明確にし、その活動を行うことにより、成就感・達成感を味わい、心の成長が感じられることを目指す。
達成目標	部活動を通して心の成長と競技力の向上を感じる生徒の割合 90%以上
方 策	・本校における部活動と中学校の部活動や地域クラブでの取り組みの違いをしっかりと認識、理解させ、生徒が主体の活動を推進し、人格の形成を図る活動をさせる。 ・部活動指導員、特別活動指導員、テクニカルエキスパートや各部のOB等からの協力を得ながら、充実した部活動になるように工夫する。 ・トレーニングハウスのトレーニング機器を有効に活用し、基礎体力の向上を図る。 ・キャプテン会議やリーダー研修会を開き、リーダーとしての資質を高める。 ・生徒の活動の成果を発信し、達成感を感じさせる活動を展開する。 ・スポーツ庁及び県の方針に従いながら、県内外の強豪校と練習する機会を積極的に設け、技能の向上を図るとともに意識の高揚に努める。

(評価基準 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:達成できなかった)